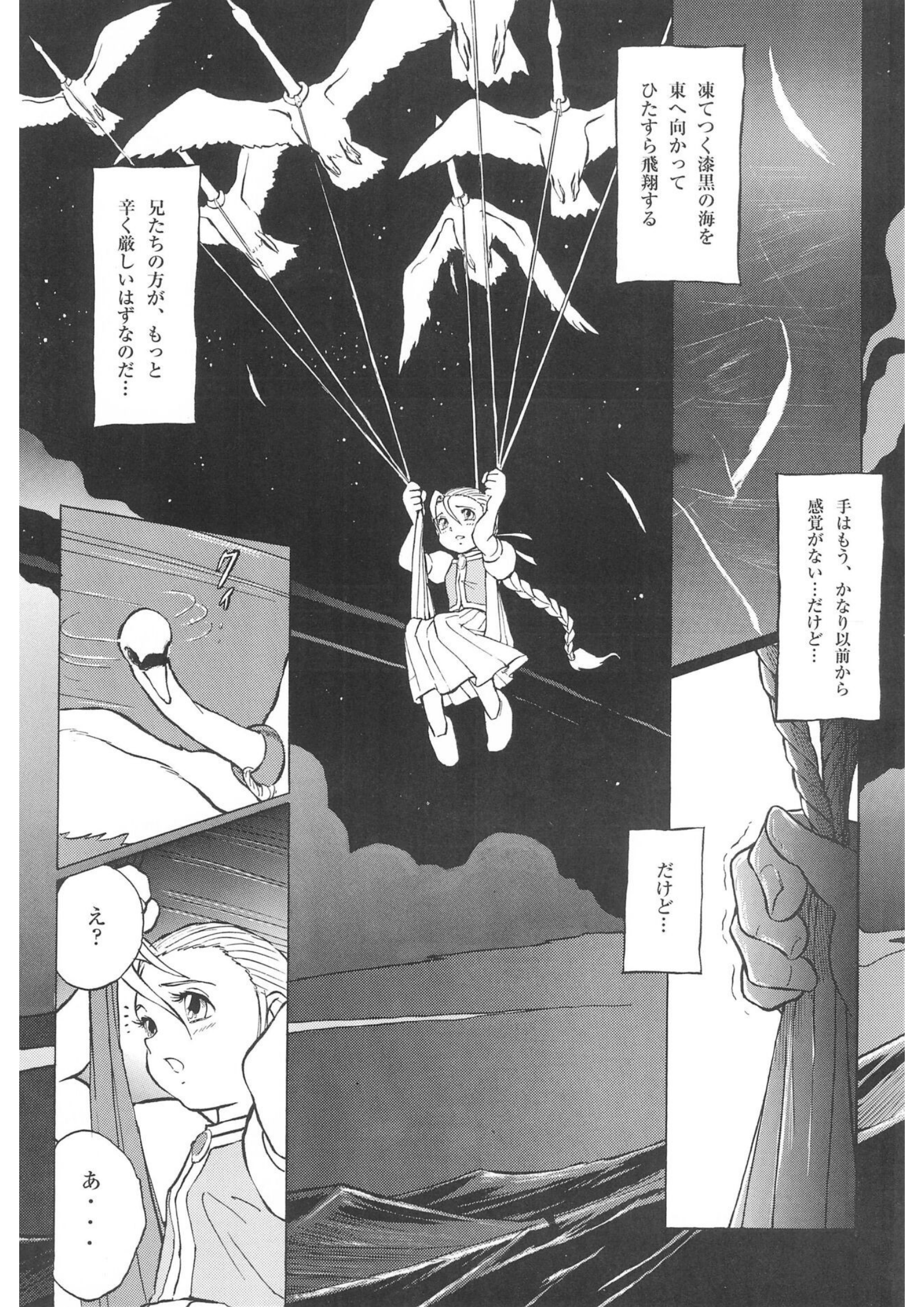


倒錯童話集 VI

野の白鳥





凍てつく漆黒の海を
東へ向かって
ひたすら飛翔する

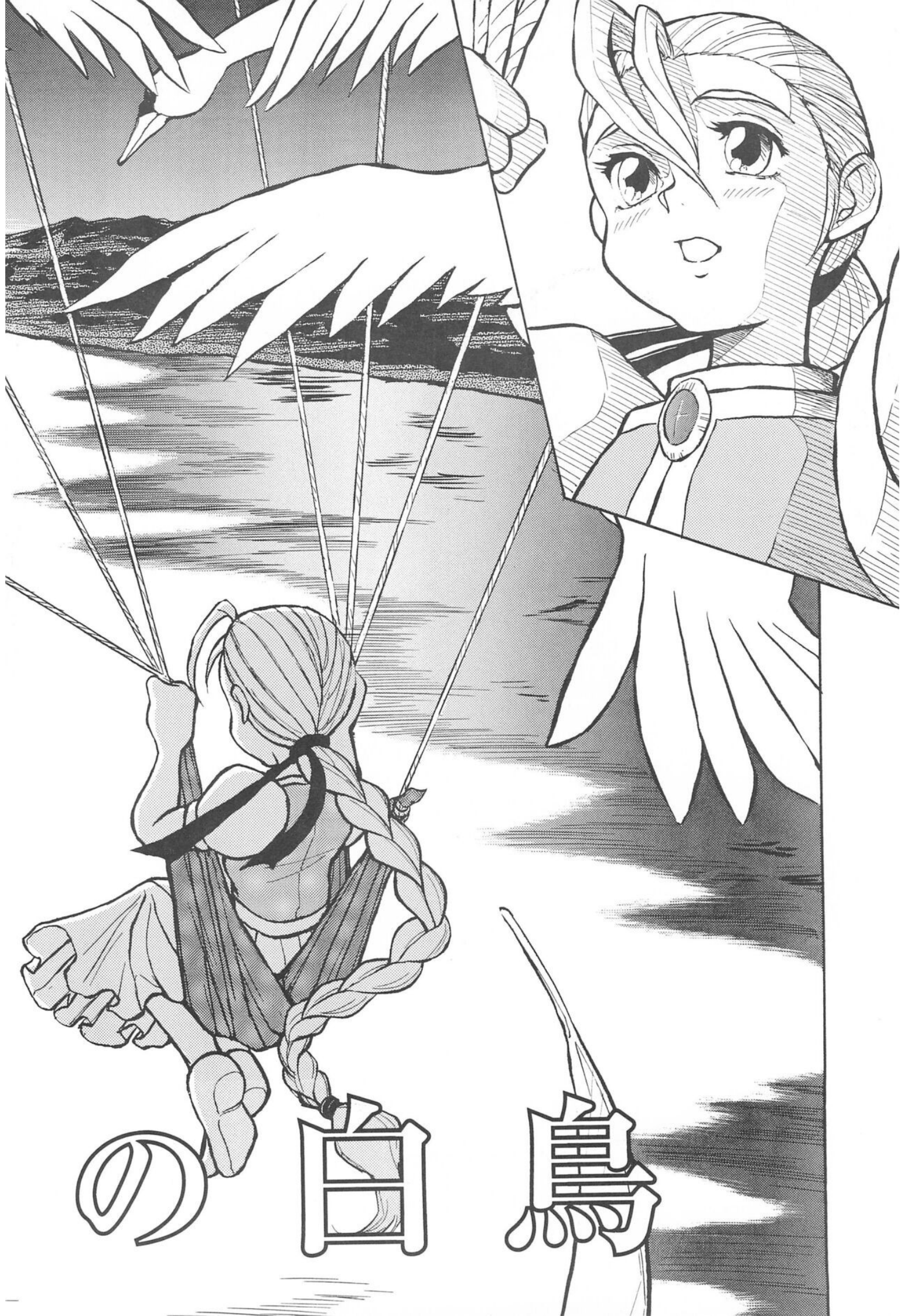
兄たちの方が、もっと
辛く厳しいはずなのだ…

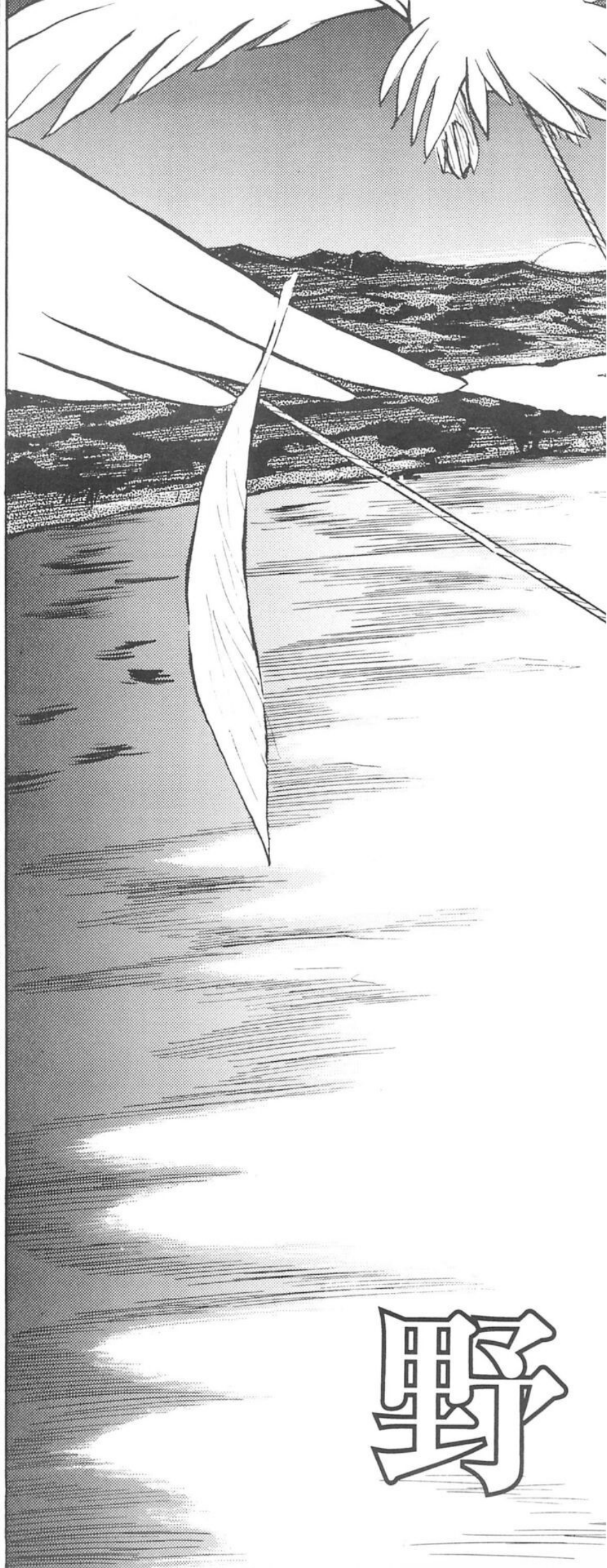
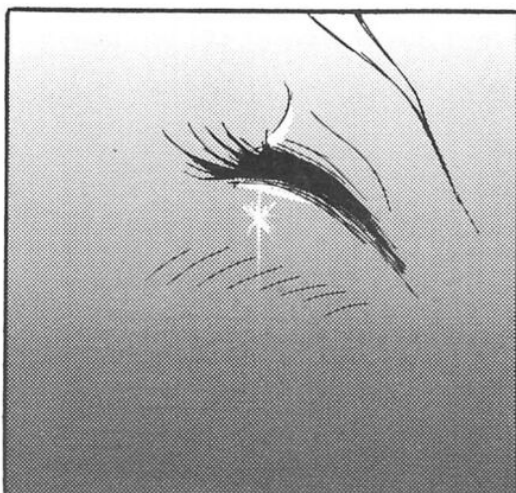
手はもう、かなり以前から
感覚がない…だけど…

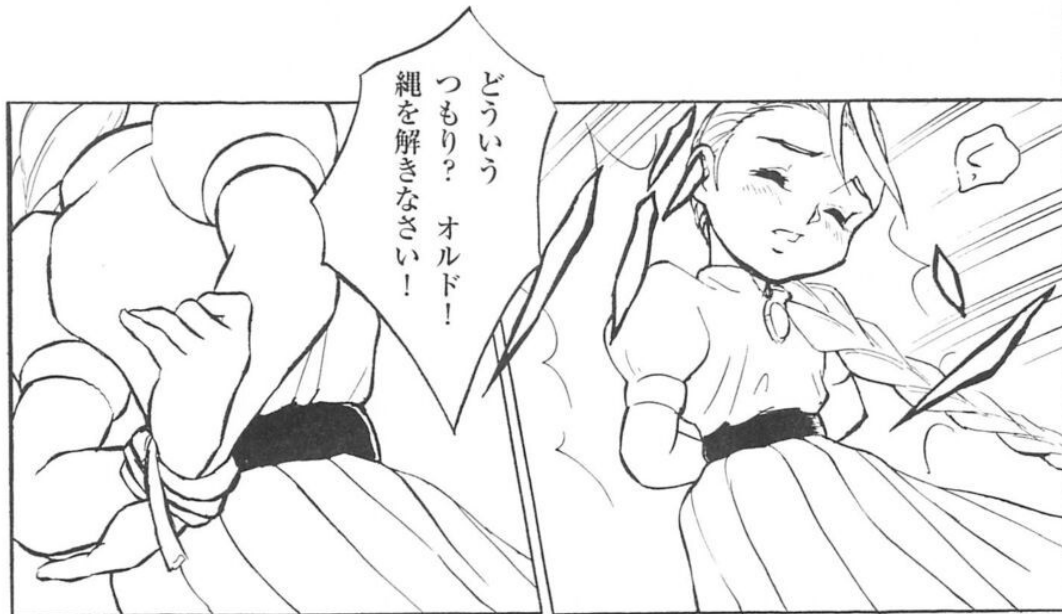
だけど…

え？

あ…







どういう
つもり？ オルド！
縄を解きなさい！

イヤアアツ

残念ながら、
それはなりません、
エリサ王女

ラミア様…
あなたの新しい母君からの
たつてのお達しなのです。
姫様の教育を
やり直すようにとね…

悪いのはラミアよ！
お父様はだまされたの…
お兄様もどこかに消え
ちゃうし…

オルド！
あなたには、この邪念が
わからないの？

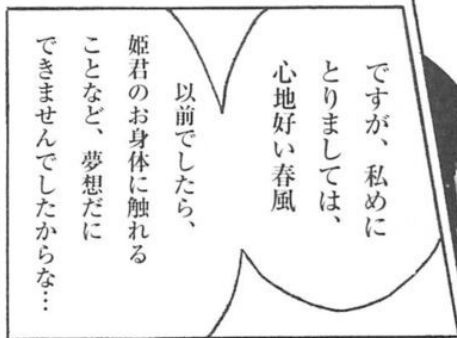
わかっておりますとも
いやいや、

ですが、私めに
とりましては、
心地好い春風

以前でしたら、
姫君のお身体に触れる
ことなど、夢想だに
できませんでしたからな…

あっ

やめて、無礼な…
やめなさい！



イヤア
なにするのよ！
バカ、変態！

これはこれは…
姫君ともあろうお方の
言葉とは思えませぬな

ククク…
ますますもって、
調教のしがいがあると
いうものです…

では、エリサ姫
まずは、触診にて
姫君の御形を
拝見…

あ、

りや

ククク
腰を引いても
逃げられませぬぞ？

あ、

姫君、どんな気分ですか…
気持ちいいですか？…ほうら、
私の人指しゆびが、姫君の桃李に
密着しておるのですぞ？

は

おほお…さすがに
しつとりと温かい…
高貴な負圧を
感じますぞ…

ああ…
やめなさい、
さもないと…

おやおや…
まだ御自分の立場が
おわかりでないようだ…

んあ、

よいですな、
姫君。あなたは
命令も口答えも
なりません

痛い
痛いよ
……

逆らうと、どんどん
このフックが姫君に
めりこんでいきますぞ

口からよだれが
垂れてますぞ、
はしたない

あ、

むごっ

ククッ いいですね
そのまま口に
くわえてなさい……

うっ

くふ

おやおや、
泣いておられ
るのですか？

う、

はさまった指が
痛いですか？

それとも、
私のような輩に
はずかしめられて
悔しいから……

いやいや、
それとも……

まだ見ぬ、いいなすけの
ローセン国王子に操を
立てておいでですか？

この格好のまま、
城下の広場で国民に姫君の
晴れ姿を披露するのも
一興かもしれません……ククッ

さあ、いかがです
なかなか似合って
おいですよ……

え？

グ

あ

あ

あ

凶星ですか？
そのことでしたら
御安心ください

あの話は破談にしました…
ラミア様の御意向でね…

本当は、あなたも
兄君たちのように、処分して
しまいたかったらしいの
ですが…

幸か不幸か…
ラミア様の魔法は、
信心深い処女には
かかりにくいようでした…
ククク…

私めに姫様の
純潔を奪いさるる様に
申されたのですよ

クククツ
大丈夫ですよ…
楽しみは最後にとっとく
性分でしてね

あ、あ

は

は

あうあ…

ひん

おっ

はっはっ

びん

絶対に、
いや！

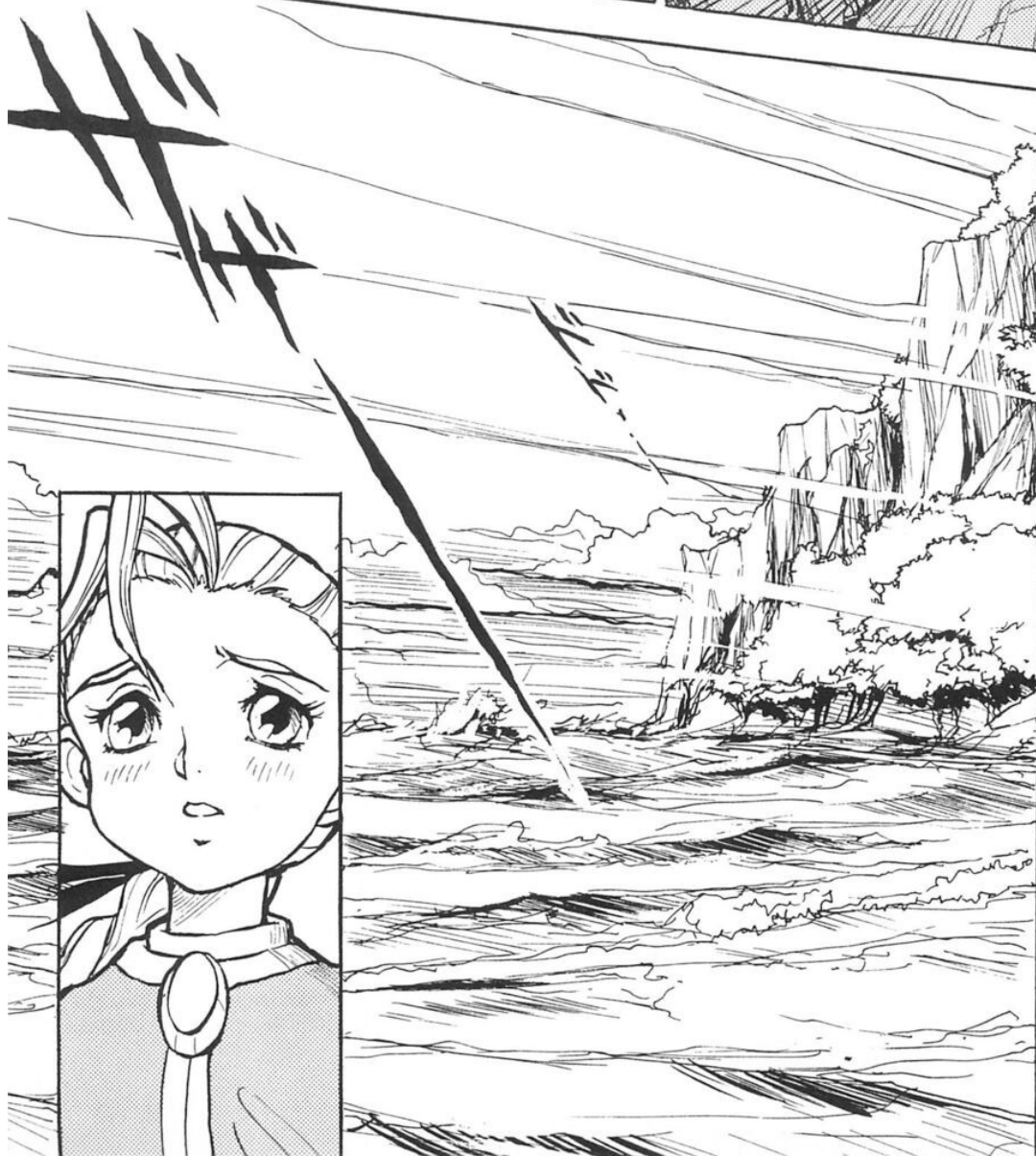
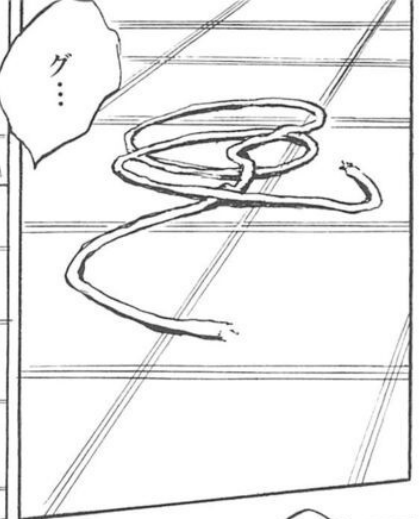
やりましたな、
姫君…
そのお年齢で失禁
とは… 私の愛撫も
まんざらではない
ようすなあ？

さあ、
今度は姫君が
私のをなぐさめて
ください…
よいですか、
歯を立てては
なりませぬぞ…

グギヤアアア…

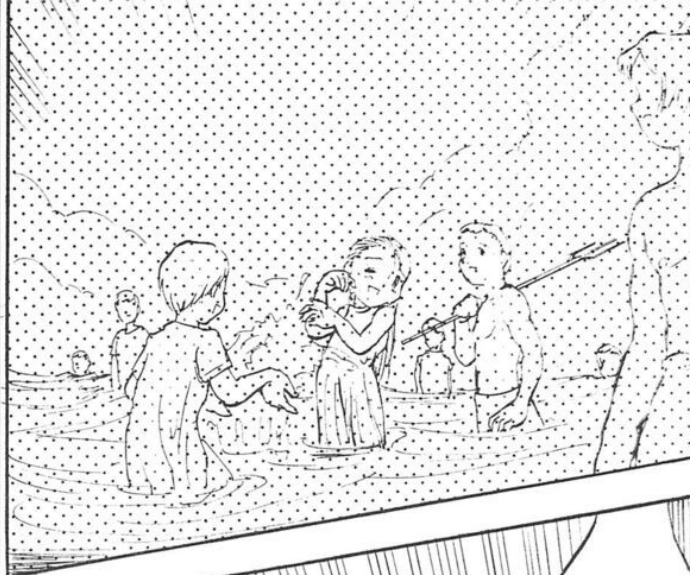
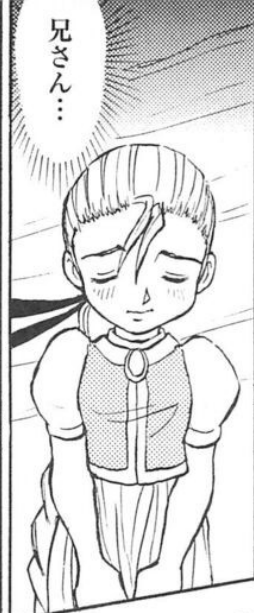
いやだ…
こんな男のおもちゃに
されるなんて…

嫌だ…
絶対に許せない…
絶対に…





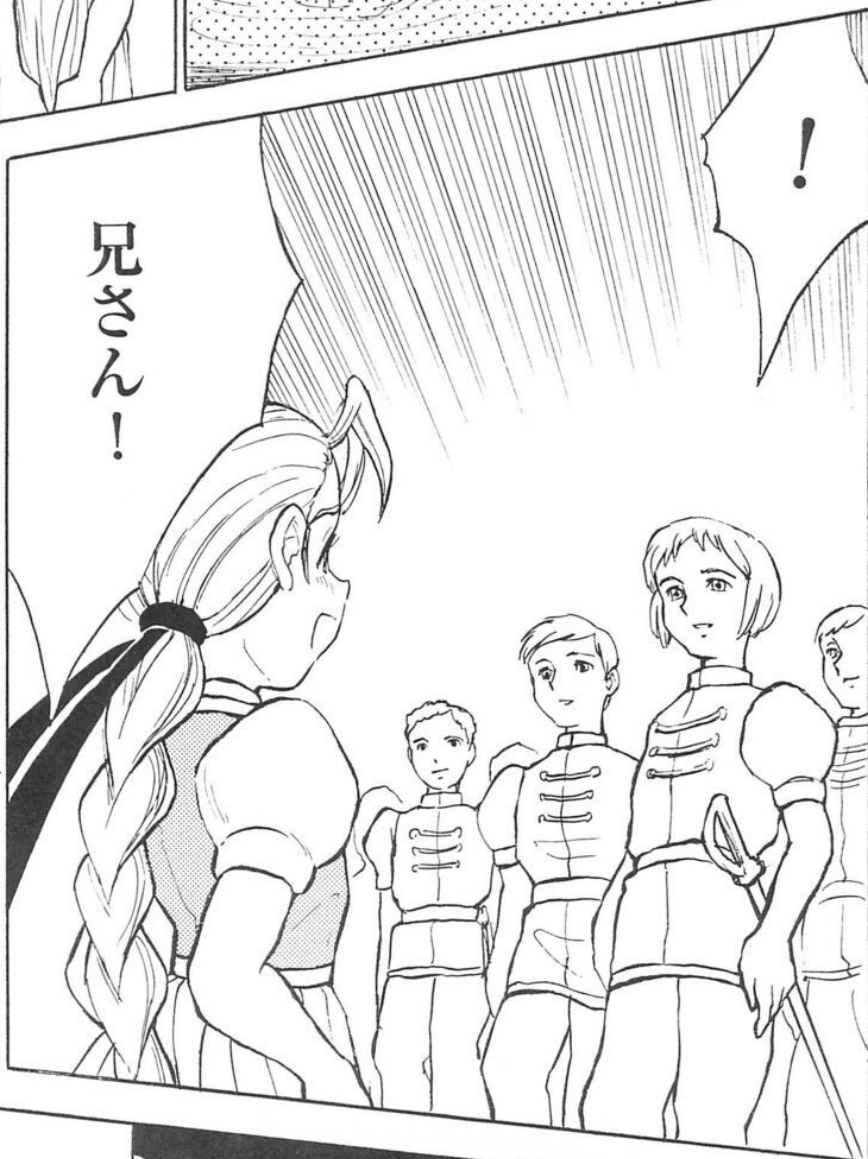
兄さん…



兄さん… ああ
無事だったのね？
心配したわ…

エリサ…

兄さん！



ねえ、
ウソなんでしょう？
ウソって言ってよ…

えっ？
どういうこと？



よかった…
兄さんたちと一緒になら
どこへゆこうとも
生きて行けるわ

…エリサ…
残念だが僕たち7人は
ラミアの奴に、
魔法をかけられてしまった…
おまえと一緒に暮らすことは
できないんだ…



見てのとおりだ…
僕たちは翔びつづけねば
ならない運め…
だが、せめて
エリサ、
おまえを安全な地へ
連れてゆく…



そんな…

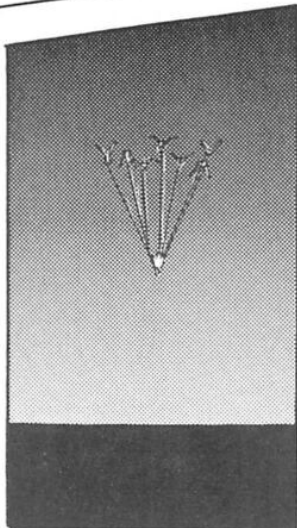


隣国のローセンへ、
冬の間を越えて
おまえを運ぶ



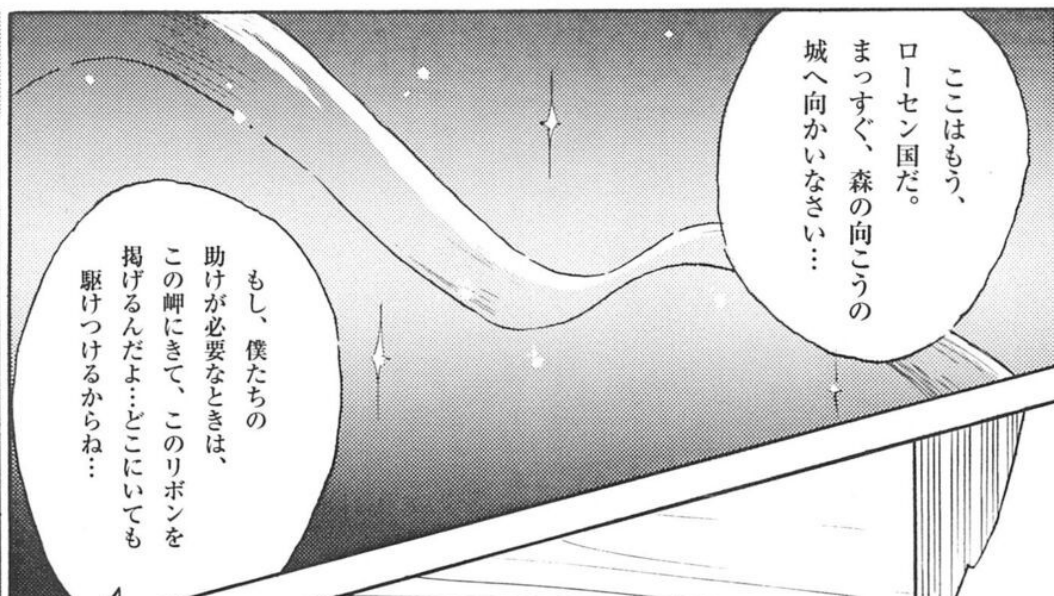
あの国には、
おまえのいいなずけの
カール王子がいる。
事情を話せばかくまって
くれるだろう…

さあ、元気をお出し、
エリサ…
冬の間は、冷たく危険だが
これしか方法がないんだ…



エリサ

エリサ…



…あれは
異形転身の魔法
じゃな…

高級な呪いではない
…じゃが、とても
強力じゃ…

フオッ
フオッ

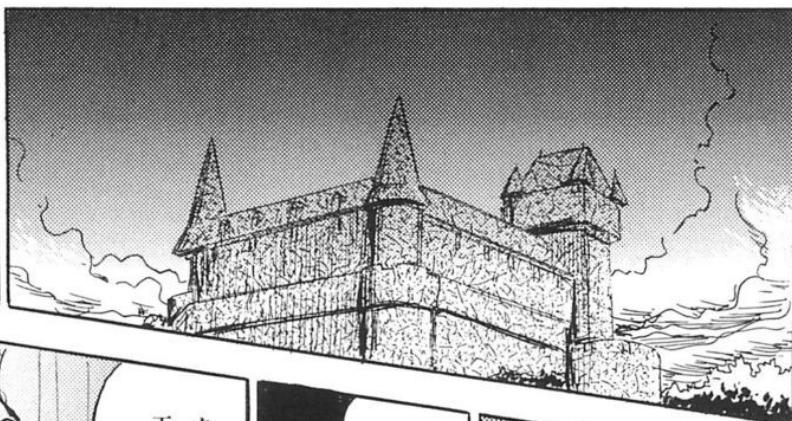
何が翔んで
きたかと思えば…
こんな娘っことは
な…

呪いを
解く術が
ないわけでは
ない…

すべては
おまえしだいじゃが…
どうするね？
娘っこ！

で…

結局エリサは
行方知れずと
いうこと？



愚かな…

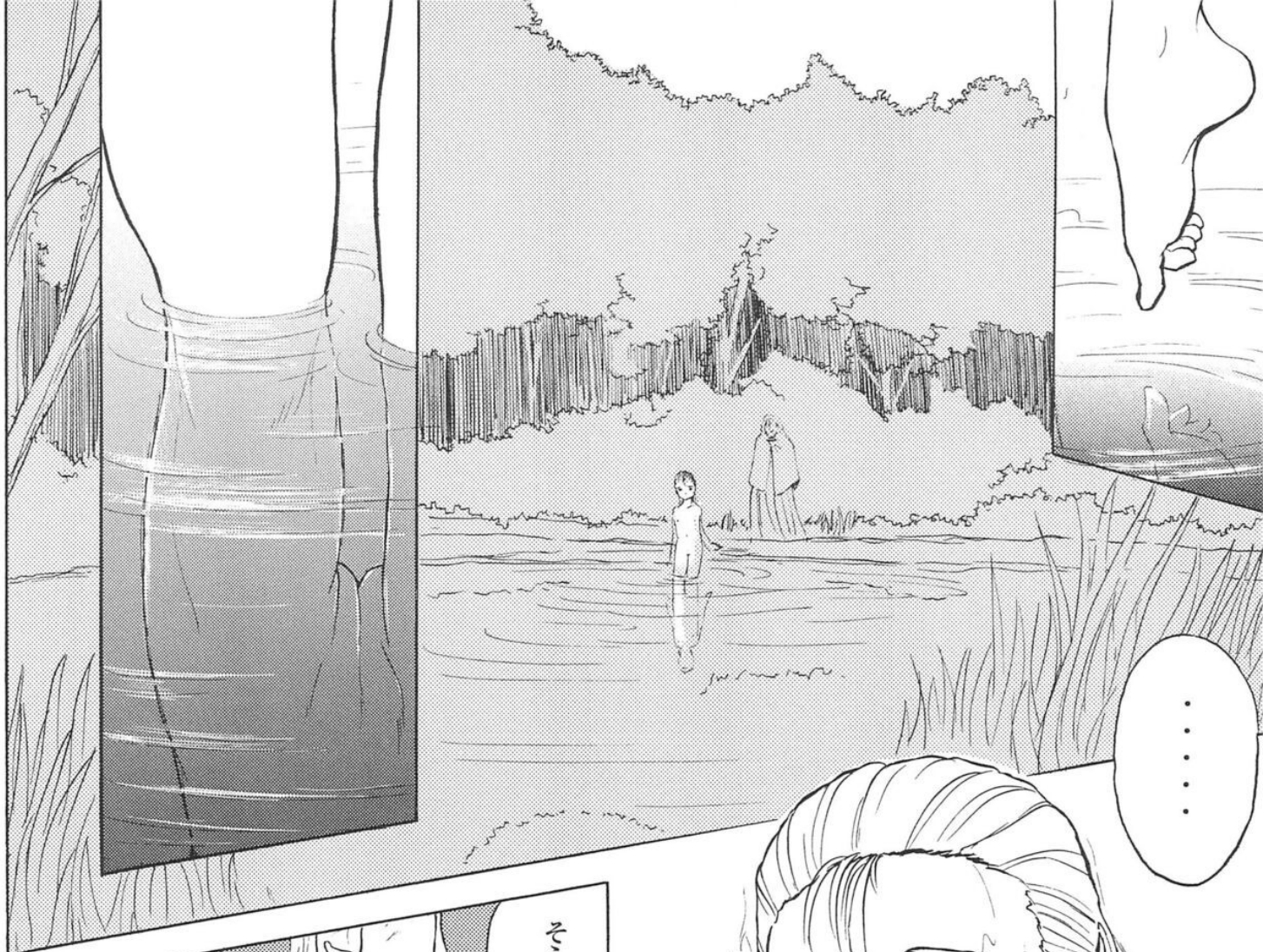
おまけに
キサマは、一物を
噛み切られる始末…

ククッ
王よ…

あなたの子供たちは、
どうも手がかかって
いけませんわね…

見つけ
出せ…

そして
今度こそ、
始末をつけよ！



ふむふむ…

ど、
どうですか？

膣も肛門も
みごとにピンク
色じゃ…

それに、この
乳首がまた
かわいらしくて
いいのお…

ああ、
やめて下さい！
それも関係あるん
ですか？

いやだなあ
またこんな
カッコ…

かわいいクリトリス
じゃのう… 剥いて
みてよいかえ？

そんな！

ちよつとフザけて
みただけじゃ… どれ、
確かめてみようかの…
舌を入れるぞよ？

あ、あ、
そこは…そこは
ダメエ…

フオツフオツ
合格じゃ…

じゃが泉には
もう一度入らねば
ならなくなつたようじゃ
のお…フオツフオツ

はあ

ふあ

あ、あ、
ビクン
ビクン

出ちゃう、
また出ちゃうよお…

い、いやあ…
あつあつ…ああ

チユク

フチユ

アアン

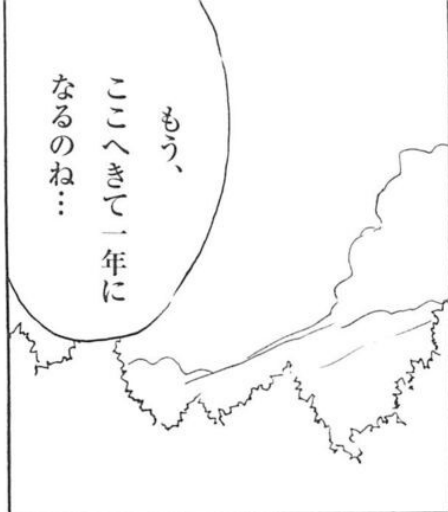
よいか…
転身の呪いを解くには
イラクサで^{ベスト}胸着を
編むのじゃ

イラクサを素手で摘めば
そのトゲで皮膚は裂け、
毒で焼けつくであろう

痛ッ

じゃが、それは
おまえに課せられた
試練！

絶大な抗魔作用のある
イラクサが、おまえの意志を、
精神を、試しておるのじゃ…



何をしている
その男！



早急にこの場より
立ち去れ！ 下衆がっ

そ、その声

その
紋章…

し、失礼いたし
ましたあーっ

それはいいが、君のような
小さな娘が森の中には
危険だよ。悪いことは言わない
僕と一緒にきなさい

あ、ありがとう
ございました



いい、いえ
どうぞ、おかまい
なく…

でもなあ…これから
ひと月ほど狩りの
シーズンなんだよ
なあ…

あんな男どもが
そこいらじゅうに
ウロウロしてると
だるうに…

あ、あの…
それでは狩りのシーズン
が終わるまで…その…

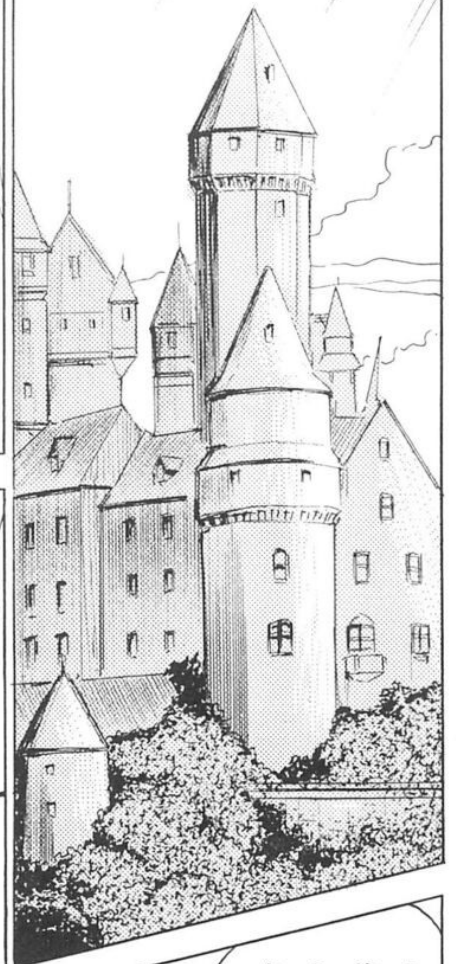
で、でも私、はじめに
ことわっておきますけど、
絶対に日なことはしませ
んよ…それでよろしければ…

ハッハッハッ
面白いお嬢さん
だなあ…
わかったよ、
さあ馬にお乗り

僕の名はカール
ローセン国の
第一王子さ

えっ？





入ります

どうぞ…



おおっ



うん…



きれいだ
よく似合っているよ

この部屋は、好きに
使ってもらって構わない
え…と、そういえば
名前を聞いてなかった
んだっけ…

エ…いえ、その
オ、オルティエと
申します

あ、あの
王子…

つかぬことを
伺いますが…



ご結婚とかはされて
いないのですか？

してない…

というよりも、
一年前、アルタシアの
王女にふられちゃって
ね…

それきりかな…



わかって
くれた？

はい

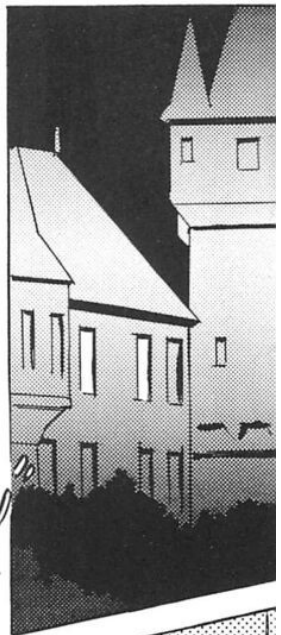
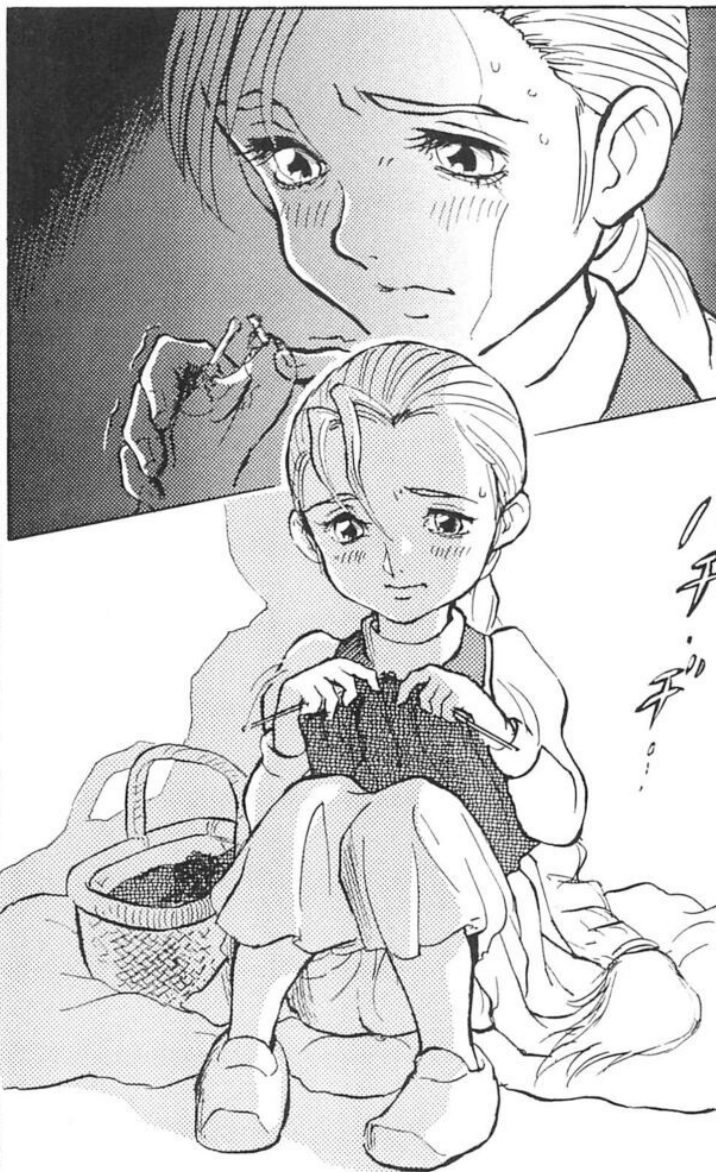
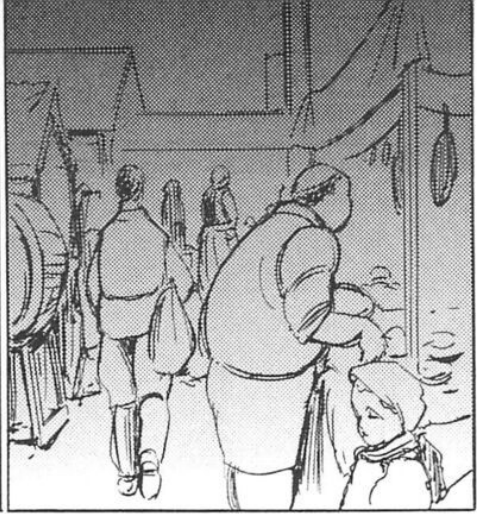
オルティエ…
クイラクサクの意味だね
変わった名だなあ



それで、私のような
娘をさらってきて
いるんですね？



だあゝ
違うって！



そんな
思いまでして
どうして
君は……？

ここに6枚の
ベストがあります

私が編んでいる
7枚目……これが最後の
1枚なのです……

それが終わったら、
すべてを話して
くれるんだね？

フ
フ
フ……

ごめん……

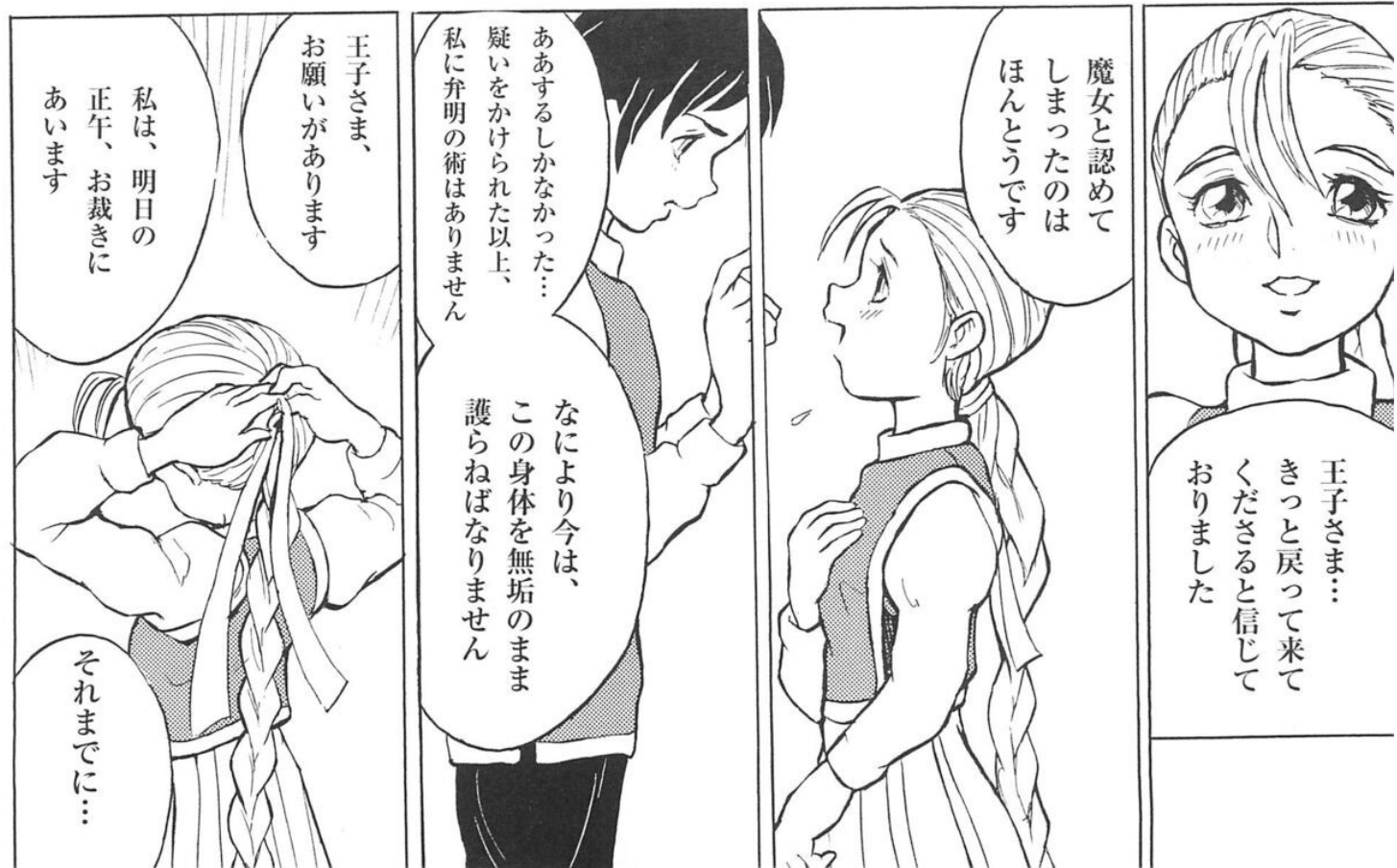
でも不安なんだ……今、この瞬間
にも君が僕の目の前から消えて
しまうような気がして……

明日から一週間、
領内の視察で城を
留守にする

その間、どこへも
行かないと、約束
してくれるね？

あ……

はい……



これを持って、
北の岬へ行き、
天高く掲げてください

…そして、
集まって来る者たちを
私のもとへ、連れ帰って
欲しいのです

……

北の岬といえば、
馬をとばしても
ギリギリの時間だ…

僕が
間に合わなかったら、
君は焼け死んだぞ？
それでも君は…

ええ…

…
わかったよ

しかし、おどろいたな
ちよつと見ない間に
すっかり大人びたみたいだ

取り乱していたこっちが
恥ずかしいよ…

よし！
かならず任務を完遂して
ごらんにいれましょうぞ
オルティエ姫どの！

はい！

頼りにしてますよ、
カール王子！

私をお忘れ
ですか？

エリサ姫…

オルド！

あなたを密告したのは、
この私…本当は、その後、
あなたをこの手で拷問
したかったのですが…

あなたは賢明にも、
あつさりと嫌疑を認めなすった…
私としては残念至極…そこで今夜、
個人的に参上した次第です

よし…
あと少し…

誰？

だれなの、
そこにいるのは？

クックック
エリサ姫…
一年ぶりですなあ

布ごしにも、
乳房の発育ぶりが、
よくわかりますぞ…

ああ

乳首の方は、
いかがですか？

あぁっ
やめて…痛っ

あーん

ビクッ

こいつは、なかなか
イケますぞ…
クックック

ごらんなさい…
一年前、あなたに
噛み切られてしまったので、
ラミア様に、新しいのを
つけていただきました

ガクガク

クックック
もう、イッてしまわれ
ましたか？エリサ姫：

だめ、
はあ

もうだめ…
はあ

こんな

ギョッ

こんなところで
終わってしまうなんて…

あきらめては
ならぬ…！

おまえの想いは
その程度のもの
だったのか？

そんな肉欲の誘惑に
屈して、恥ずかしく
ないのか…？

……！

グッ

それでいい…

おまえが編んで
いるもの…

それはただの
解呪の衣では
ない…

おまえの怒り、悲しみ、願い…
あらゆる感情が編み込まれた、
おまえの意志の象徴なのだ…

クックック…
この期におよんで
編み物とは…

では、姫さま…
そろそろ行かせて
いただきますぞ…

うっ
な、なに？

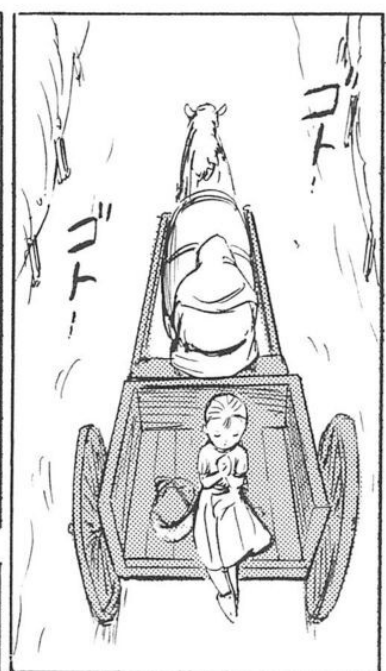
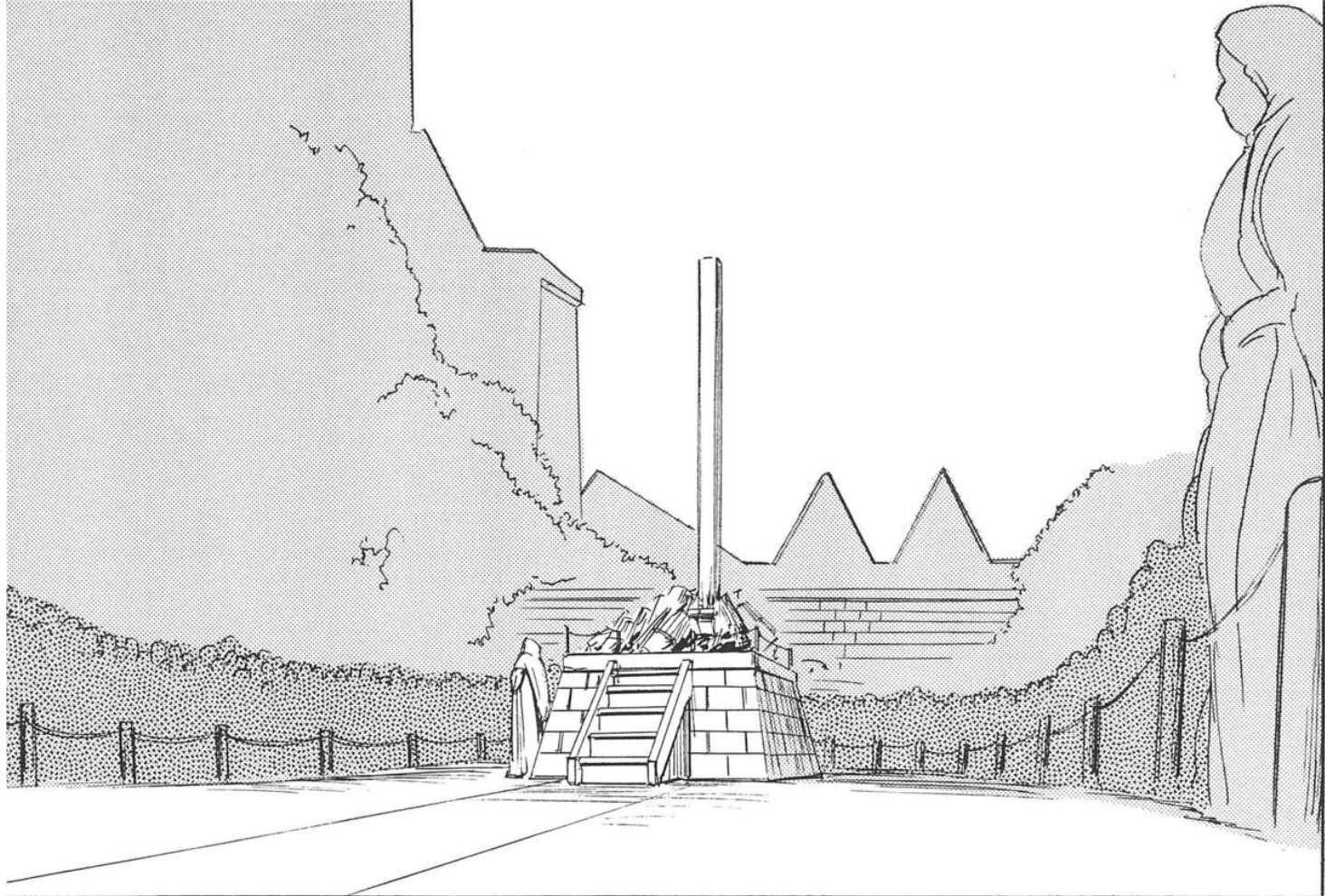
ううああ！

！

ユッ

あま

…できた
………！





エリサー！





白鳥だ！
煙のまわりを
まわってる…

4、5…
7羽もいるぞ…

あ！
炎の中に
飛び込んで
ゆくぞ！

なんだ…

何が、
起こって
いるのだ…？



皆の者！

よく聞け

真実は
ここにある！

この者たちは、アルタシアの
王子と、王女エリサ
エリサは魔女ではない
彼女は、本当の魔女にかけられた
呪いから兄たちを救うべく
闘っていたのだ！

そして、
本当の魔女とは…

邪悪な気を
感じます…魔女は
ここに来ています…

そこに！

ラミア…
あの女こそ、私達の祖国を
乗っとり、蹂躪した
魔女なのです！

ザ
ク
ン



クックック

ずいぶんと
ナメた演出を
してくれたじゃないか、
エリサ…

だが、調子に
のってられるのも
そこまでだ

この場で
まとめてあの世に
送ってやろう！



それ！



なにっ？

バカな…

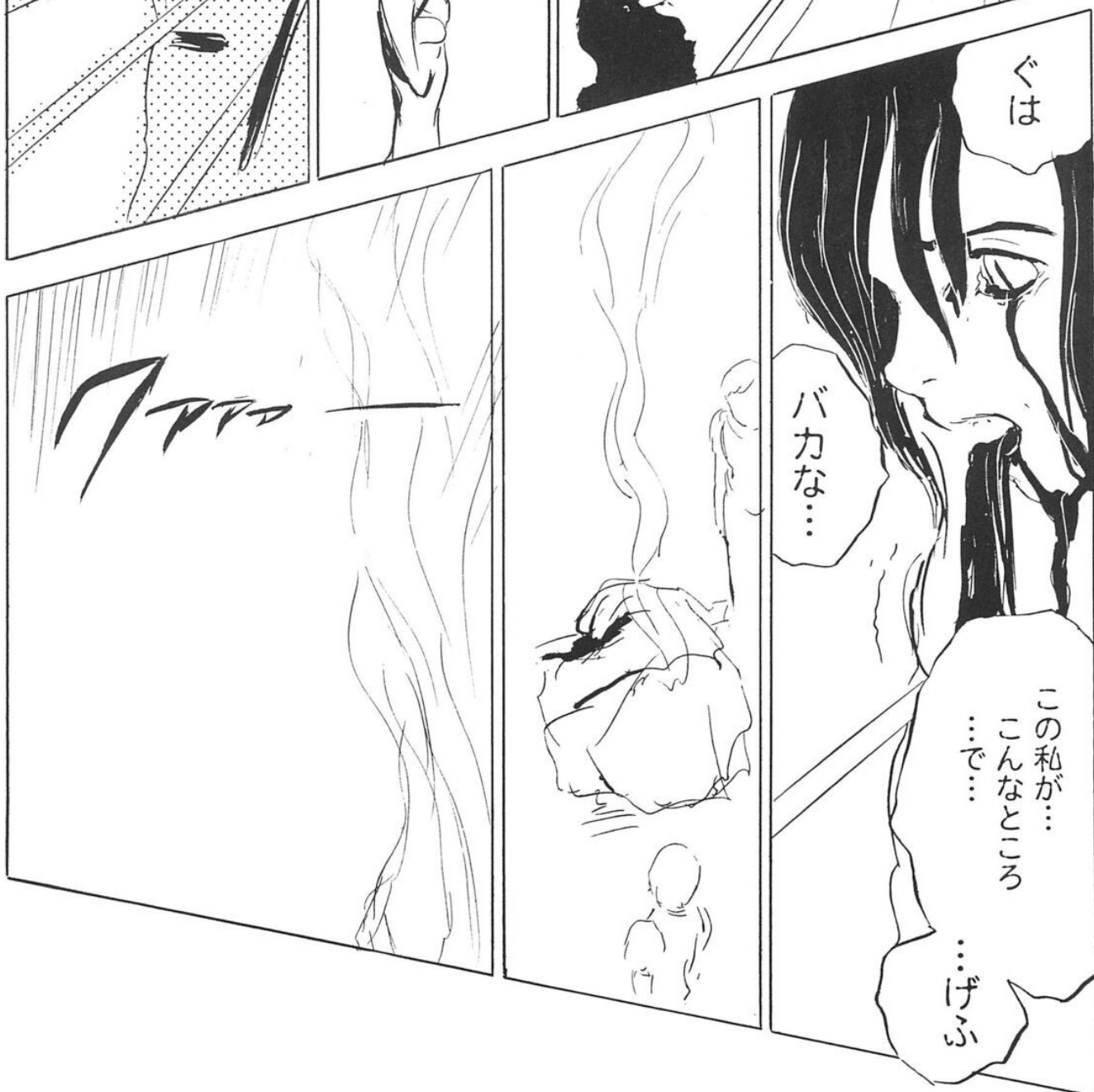
魔をはねかえし、
魔を捕らえ
魔を滅する…

エリサが我らに
編んだものは、単なる
解呪の衣ではなかった…

破邪のカタビラ
なのだ！



ムダだ
おまえの魔法は
通じん…

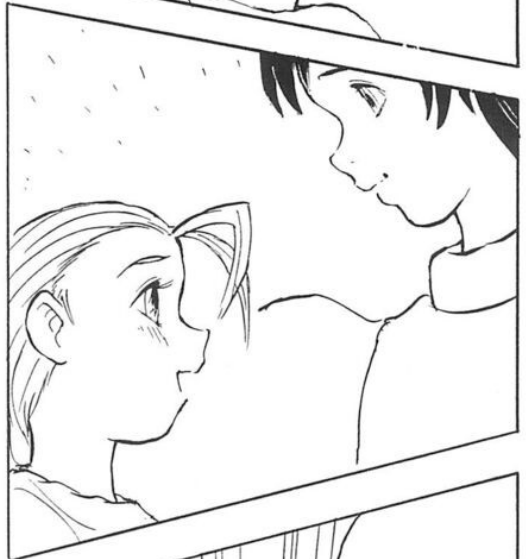




私はアルタシアの第一王子
ライツェルと申します。
この度はエリサへの
多大なるお力添え、
感謝いたします…

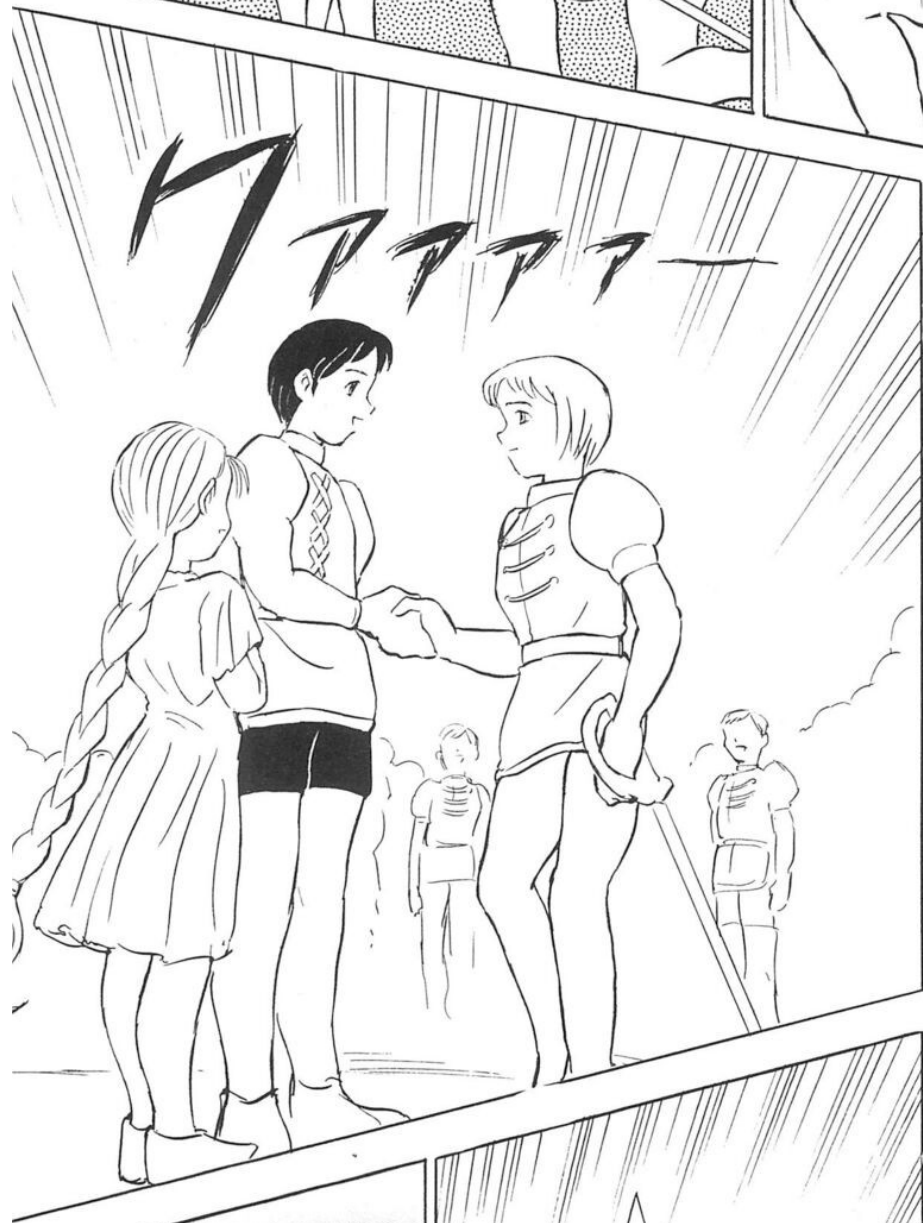


つきましては、昨年
の当方よりお断りした縁談の件、
再考願うことはできますまいか？
アルタシア国王代理として正式に
申し入れいたします…



もちろん
喜んで！

大切な妹君を
あずからせて
いただきます！



グアアアア

アッ

あー

は

？
どうか
したの？

は

いや、これが君の兄さんや、
そして一王国を救った
処女膜だったんだって

さぞ、大変だろうと
思ってたんだけど、
あっけなかったなあ

それも
そうか…

…よし、
なんか納得したぞ
そうと決まれば

バカね…

簡単に破けちゃうものだから
苦労したんじゃない…

イヤン

記念を中まで
よく拭ってから…

あ

今夜は、こころゆくまで、
とことんHしまくろう！

キヤハハハ！

いやあん、やめて
くすぐりたいじゃない
いやッ あッ
あんもう…

アッア

ため？

End..

「野の白鳥」について

～雑感と解説～

僕が、アンデルセン物語の「野の白鳥」と出会ったのは、小学校2、3年のころ。学校向けに配られるカラーの壁新聞に、東映のアニメ「白鳥の王子」が、写真入りで紹介されていた。木造校舎の階段の踊り場に無雑作に鋸で止められていただけなのだが、エリザの物憂げな伏せ目がちの表情に、「うっ…」としばし見入ってしまったのを憶えている。東映の「白鳥の王子」は1度見たきりなので、詳しいことは記憶にないが、ショートカットのエリザが妙にHだったのは確かだ。おそらく今見てもそうだと思うが…。

それから約十年後、大学生になって、虫プロの「アンデルセン物語」にはまった。虫プロの「アンデルセン物語」そのものは子供の頃けっこう見ていたような気がするが、ズッコとキャンティがアンデルセン物語の世界に介入して、話の顛末をハッピーエンドに改変してしまったりして活躍するドタバタ劇…といった印象しか残ってなかった。（多分にあのオープニングとエンディングのせいだと思うのだが…。）

ともかく久しぶりに真面目に見た「アンデルセン物語」に新鮮な感動があった。素朴だが的確なキャラデザイン。落ち着いた色調。そして秀逸なキャスティング…なにより原作に忠実に、真摯な姿勢で製作されていた。その中で「野の白鳥」は3週の続きもので製作されていた。残念なこと3話目の作画が若干落ちるのだが、それを差し引い

ても、とてもすばらしいものだった。とくにエリサの声をあてた松尾佳子さん（ザンボット3の神北恵子と言えはわかってもらえるかな？）の演技は、なんだか妙にねちっこくわずった感じで興奮ものである。

他の話では「ふたりの秘密」「王子さまは豚の番人」「旅のみちづれ」最終回の「マッチ売りの少女」などがおすすめ。それにしても、いまだに「アンデルセン物語」の完全版LDが出ていないのがとても残念である。海外向けに製作されたファミリークラシックともどもビデオ、LD化を希望する。（ちなみに「アンデルセン物語」が、その真価を発揮するのは27話以降。つまり3クール目からである。従ってLDボックスが前、後編で発売された場合、買うのはVol.2だけで可。）



↑「アンデルセン物語」のエリサ。ビデオが手元になかったので想像画。



↑デンマークの作家による挿画。エリサの水浴の場面

さて、原作の「野の白鳥」であるが、これはとても完成された作品である。エリサの国を乗っ取ってしまった魔女へのフォローが無かったりする（後半はエリサが白鳥に運ばれてやってきた別の国での話になる）のだが、全編に流れるアンデルセンの美しい文体がそれを補って余りある。エリサを運んで白鳥たちが、海を越えるときの緊迫感と、陸が見えたときの喜び…海上で、エリサは、いくつものイリュージョンを見るのだが、読んでいると、その光景が流れるように頭の中にビジョンとして伝わってくる…それほどアンデルセンの情景描写はすばらしく美しい。

また、エリサが魔女（継母、女王）に汚された身体を、森の泉で水浴してきれいにするシーンがまたいいので、興味のあるひとは読んでね。

「野の白鳥」は北欧に伝わる伝承をモチーフに書かれているのだが、同様の話がグリムにもあり、こちらのタイトルは「6羽の白鳥」。

あいかわらずグリム童話はやばたい印象で、ストーリー的にも無理があるのだが、そのあたりの破綻をものともしない豪快さがグリム童話の魅力なのかもしれない。繊細、清楚な美しさのアンデルセンに対し、そのエグさは対照的である。アンデルセンでは僧正がエリサのことを魔女ではないかと疑ってかかるのだが、グリムでは王子の母親が単にエリサを嫌って、生まれてくる赤んぼうを殺し、エリサの口に血のりをつける、という行為を繰り返して、エリサを魔女として処刑してしまおうとする。エリサの潔白が証明され、逆に王子の母親が火あぶりになるという、すさまじいラストを迎える。ちよつとなあ…（それでいいのかグリム）。

なお、原題「Den vilde svaner」は英語で「The wild swan」。エリサが摘んでいるイラクサは、実際繊維として使用できる。素手で摘むと、表面を被う刺（トゲ）から出る酸で皮膚が腐食し、ひぶくれを起こすということです。

Dot.

*1…東映のタイトルはこうなっていた。

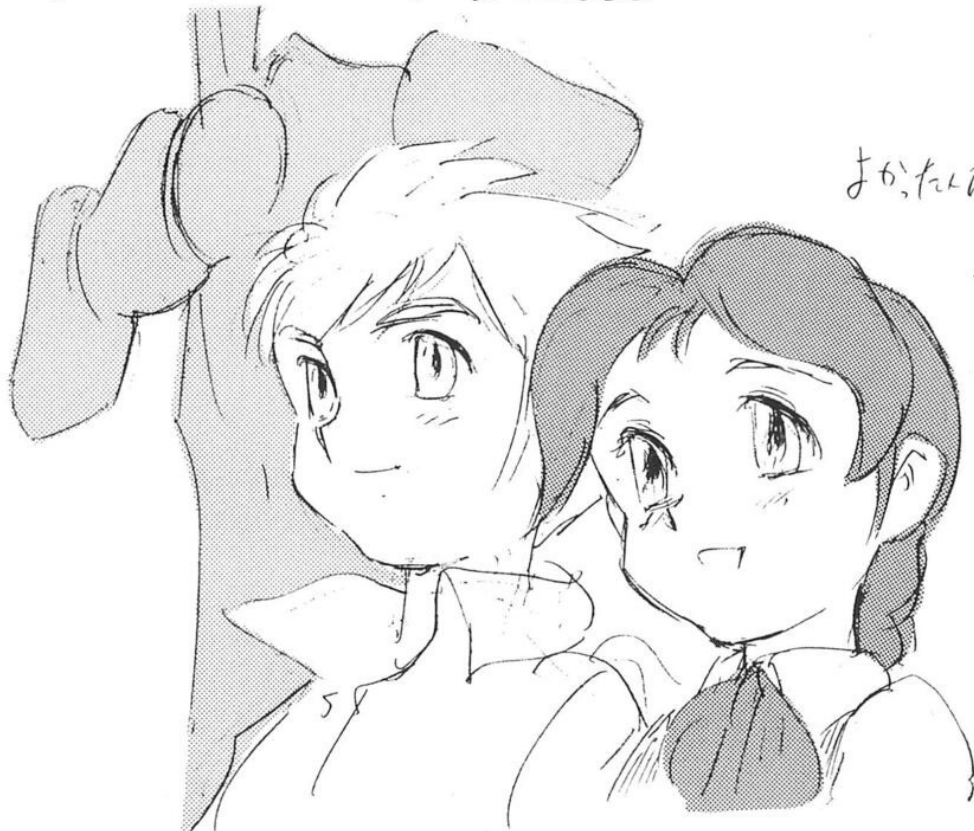
*2…これも発音の解釈の違い。

*3…「アンデルセン物語」以前の作品。

*4…極めて個人的な意見です。

ダイ・ソード完結によせて

Dot.



修羅場も修羅場の12月17日。我慢できずにダイ・ソードの7巻を買った。
読んだ。正直言って、むちゃくちゃよかった。語彙が貧弱なのでうまく言えないが、終わりの方になって、左手にたくわえられたページのストックがわずかになってくるのが、とてもはがゆかった泣けた。キャラとしてのダイ・ソードにとことん惚れた。

読者の方は「うん、うん」と賛同してくれることでしょう。読んでない方は…読んだ方がいいと思うなあ、これは。真面目に読んでください。読んでない人がうらやましい。じっくりよもう、イメージをふくらましなが（くどくなるから、このへんでやめときますがとにかくいいのですよ）。

そういや、エンディングなのだけど、1年くらい前、友人の橋本と「ダイ・ソードでCG描くとしたらどんなのがいいかなあ」とか話してたことがあったけど、橋本が「戦いが終わって、たそがれの夕陽の教室に転がるサッカーボールとか、机や黒板の落書きとか、名札の入った壊れかかったロッカーとか、泣かせてくれていいよなあ」と言っていたのを思いだしてしまった。本当に、作ったらいいのができそうだなあ。

あ、そうだ。ジオナス王はどうなっちゃったんだろう…うう、悲しい。あと6巻の予告のときと、ユーリナのセリフが変わってしまってたなあ…こっちもちょっと可哀そうだった。

長谷川裕一という作家をこころから尊敬している。まごうことなき「プロ」なのだ。ストーリーを広げて広げて、どんどん広げて、これでもかというところまでいって、さらにおまけに追い打ちをかけて…それを最後には、きちんとたたみこむ。そのクライマックスから大団円への、まとめあげる手腕は、まさに職人芸、芸術品だ。

それにしても納得いかないのは少年キャプテン編集部だ。はじめ誌上で描き下ろし単行本の話聞いたとき、月刊連載でブツ切りになるよりもイッキに描き下ろしたいという、長谷川氏の意向だと思っていただが、巻末のあとがきを読んでアゼンとした。長谷川裕一に向かって「何巻で終わりにしましやう」とかよく言えるよなあ。ほんとに。もっとこらえ性をつけろよ、キャプテン。でもそのおかげで、こっちは一気に読めて、それはそれで嬉しかった。連載だとどうしても我慢できなくて読んでしまったらうからね。こっちもこらえ性がないんだけど。

田野くんや橋本ともよく話すことだが、「マンガ」というメディア、すなわち「マンガ」というストーリーテリング手段、映像表現の在り方を、もっとも的確に表現してくれている作家なのだと思う。あの、悪く言えば描きなぐったようなラインが、良く言えば躍動感あふれるラインが最高に素敵なのだ。橋本いわく「コマ単位での描き込みを抑え、トータルでフラットなクオリティ」といったところで、本当に、1コマ1コマを見るとすごくラフなのに、全体的に雑な印象を受けないのは不思議でさえある。あれこそストーリーを楽しむのに、作品世界に没入するのに最高の描き方だ。思うに世間一般にはその素晴らしさが伝わっていないのかも知れない。だとしたらとても残念なことだが。

ともかく、ダイ・ソードはすばらしかった。

あれほどマンガの中で巨大ロボを動かした作品は皆無だ。変形も楽しませてくれたし、サービスもたっぷり。そしてハードな中にもホッと一息を忘れない長谷川節。なにより読んでて元気がでくる。ダイ・ソードも王太も頑張ってるな！ ようし、いっちょ僕も負けずにがんばろう！！ そんな闘志を奮い立たせてくれる作品でした。がんばるぞっ。

ところで下に掲載したのは田野くんのサークルBCCで冬コミで出す予定の「ダイ・ソード」の同人MTGカードです。絵は僕が描かせてもらいました。よかったら買ってください。コヨイ会長とか、九江州中、金子といった感じで、カードとして「使える」、なおかつダイ・ソードの世界観がよく反映されているカードだと思いますのでね…。

MTGに限らず、ダイ・ソードってロープレ向きだよね？ もしくはシュミレーション・ロープレとか、ミッションクリア型のストーリーものとか。ポリゴンで変形とかしてくれたりいいなあ。楽しそうだ。プレステで出ないかなあ（でもハダカがいっぱいでてるからプレステだと無理か）。それはともかく、長谷川氏の次回作、オリジナルに期待したい。



※このカードへのお問い合わせは、下記まで。手紙の場合は返信用の切手と封筒を同封して下さい。即売会価格¥500 + 送料という感じになります。

〒113 東京都文京区本郷6-11-2 田野弘高

E-Mail: sgu02413@niftyserve.or.jp

次号予告

倒錯童話集7.0「おやゆび姫」

'97夏コミにて発売!!



あとがき

毎度のことですが、お買い上げありがとうございます。おかげさまで「倒錯童話集」も「野の白鳥」で7冊目を数えることになりました。今回、このようなクオリティで出版できたのは、ひとえに黒滝様をはじめとするトム出版のスタッフの方々のおかげです。度重なる入稿遅れにも、親切に対応くださり、とても助かりました。本当にありがとうございました。

さて、ホームページの方ですが、URLが<http://www.tc-engine.com/dohwa>で稼働中です。…更新の方が、どうも少しだけ書き換えということがなかなかできずにいます。タイトル絵くらいは変えよう変えようと思っているのですが…これがなかなか…。

来年の予定は、今のところ、夏コミに「おやゆび姫」、冬コミに「白雪姫」を発刊しようと思っています。まあいつもの通り、あくまで予定ではありますが…。それでは童話集7でお会いしましょう。

Dot.

E-mail:yosuke@tc-engine.com

倒錯童話集6.0 野の白鳥

※この本は成年向けです。
18歳未満の方の購読はできません。



発行：童話クラブ 著者：Dot.

印刷：トム出版

1996年12月29日初版第一刷発行

連絡先：〒113 東京都文京区本駒込3-32-1高垣方2F 童話クラブ



The illustration depicts a young girl with long, blonde hair styled in a single braid, standing waist-deep in a dark, still pond. She is looking down at her reflection. In the background, a large, multi-towered castle sits atop a hill under a pale blue sky with a few birds in flight. The overall style is painterly and whimsical.

De Vilde Svaner

based on the Fairly Tales of
H.C.Andersen

presented by
童話クラブ'96